研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 4 年 6 月 2 5 日現在

機関番号: 32622

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2018~2021

課題番号: 18K10620

研究課題名(和文)終末期における訪問看護プロセスの可視化 疾患・年齢・家族形態別の特徴

研究課題名(英文) Visualization of end-of-life home nursing care

研究代表者

村田 加奈子(Murata, Kanako)

昭和大学・保健医療学部・准教授

研究者番号:70381465

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):訪問看護を利用して在宅看取りとなった「がん」療養者335人と「非がん」療養者136人に対して、終末期に訪問看護師がどのような関わりや看護を提供していたのかを、療養者と時期別にその特徴を明らかにした。本研究では、訪問看護記録についてテキストマイニング法を用いて分析を行った。その結果、「がん」療養者には疼痛に関する看護ケアが多く、「本人」や「希望」という特徴も看護記録抽出された。一方「非がん」療養者では、訪問看護師は呼吸ケアなど生命にかかわる看護ケアと、陰部洗浄や摘便などの清潔・排泄ケアを多く実施していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究は、終末期における訪問看護のケア内容をがん療養者と非がん療養者に分けて分析することで、今後の在 宅看取り推進に向けた訪問看護の質向上に寄与することができる。

研究成果の概要(英文): The purpose of this study was to clarify the characteristics of the relationship and nursing care provided by home care nurses to "cancer" and "non-cancer" home-visit nursing users at the end of life based on home care nursing records.

The home-visit nursing records (including home-visit nursing plans and reports) of 471 home-visit

nursing users who received end-of-life care at home between June 2013 and September 2017 were included in the analysis.

As a result, it became clear from the home nursing records that some "cancer" patients maintained their ADLs until close to death, such as going to the toilet even two weeks before death. Nursing care related to pain was often provided. The "non-cancer" patients were often bedridden one month prior to death, so they received life-related nursing care such as respiratory care, and cleanliness and excretory care such as pubic washing and defecation.

研究分野: 在宅看護学

キーワード: 終末期 訪問看護

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

我が国では、誰もが可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける ことができるように、地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっている。その中で、地域 で暮らす療養者の生活と疾病の両方を支える訪問看護師への期待は大きい。訪問看護師が訪問 看護利用者の終末期において、実際にどのような看護を提供しているのかを明らかにすること は、地域で暮らす高齢者が自分らしい最期を迎えることに貢献できると考える。

在宅療養のがん患者、特に末期がん患者は、40歳以上であれば介護保険が利用できる上に訪 問看護が医療保険で受けられるなど、支援制度が整いつつある。訪問看護においても、患者の終 末期における研究は数多くなされている。一方で、非がん患者の終末期における訪問看護の実態 に関する研究は少なく、どのような訪問看護がなされているのか明らかにされていない。また、 訪問看護師へのインタビュー調査や事例で整理した研究 1、死亡前 1 年間の身体機能低下のパタ ーンとそれに伴うケア 2)や死亡 7 日前からの調査 3)はあるが、訪問看護記録から終末期における がん患者と非がん患者の訪問看護の特徴を明らかにした研究はほとんどない。

2.研究の目的

本研究では訪問看護記録から、終末期における高齢の「がん」療養者と「非がん」療養者に対 して、訪問看護師がどのような関わりや看護を提供していたのかを、死亡前の時期別にその特徴 を明らかすることを目的とした。

3.研究の方法

2013年6月から2017年9月までに在宅看取りとなった訪問看護利用者471人の訪問看護記録 (訪問看護計画書・報告書を含む)を分析対象とした。分析項目は、性別、年齢、主たる疾患名、 訪問日、死亡日、訪問看護記録(記述内容)で、主たる疾患を「がん」と「非がん」に分類し、 死亡日からその前 42 日間を「死亡 14 日前から死亡日まで」「死亡 28 日前から 15 日前まで」 「死亡42日前から29日前まで」の3つの時期に分類して分析した。

分析方法は各項目の記述統計を算出し、訪問看護記録(記述内容)については Text Mining Studio 6.2(NTT データ数理システム)によるテキストマイニング法を用いて単語頻度分析、係 り受け頻度分析、補完類似度を用いた特徴語抽出、ことばネットワーク分析を行った。

倫理的配慮として、昭和大学保健医療学部人を対象とする研究等に関する倫理委員会の承認 を得て実施した。

4. 研究成果

分析対象となった 471 人のうち「がん」療養者は 335 人で、男性 199 人 (男性対象者 272 人中 73.2%) 女性 136人(女性対象者 199人中 68.3%)であった。「非がん」療養者は 82人で、男性 73人(男性対象者 272人中 26.8%) 女性 136人(女性対象者 199人中 31.7%)であった。死亡 時の平均年齢は「がん」療養者で男性 75.6±10.6歳、女性 73.1±12.9歳、「非がん」療養者で 男性86.0±7.6歳、女性90.4±6.0歳であった。

(1) 単語襟度分析の結果(表1)

訪問看護記録の単語頻度では、「がん」療養者と「非がん」療養者ともに3つの時期に関わり なく、「家族」、「本人」、「良い」という単語が一番多い結果であった。

表1	「がん」)	療養者と	「非がん」	療養者の	訪問看記	護記録にお	ける単語	 類度							
	死亡14日	目前から列	正亡日まで			死亡28日前から15日前まで					死亡42日前から29日前まで				
	がん	υ	非が	h		がん非がん			がん			非がん			
順位	単語	頻度	単語	頻度	順位	単語	頻度	単語	頻度	順位	単語	頻度	単語	頻度	
1	家族	2170	家族	865	1	家族	829	家族	355	1	家族	577	家族	213	
2	本人	1034	良い	416	2	本人	496	良い	187	2	良い	329	良い	112	
3	良い	1026	本人	322	3	良い	467	本人	148	3	本人	323	本人	97	
4	伝える	827	訪問	292	4	言う	279	言う	131	4	言う	239	訪問時	84	
5	連絡	738	説明	283	5	様子	274	訪問時	118	5	痛み	213	伝える	75	
6	訪問	721	伝える	280	6	痛み	268	伝える	112	6	病状観察	210	見る	75	
7	説明	721	連絡	279	7	訪問時	265	訪問	101	7	様子	193	出る	73	
8	様子	716	言う	276	8	病状観察	263	食べる	101	8	伝える	190	話す	66	
9	言う	696	呼吸	269	9	伝える	260	食事	98	9	訪問	184	食事	66	
10	状態	573	様子	265	10	訪問	258	様子	96	10	出る	171	言う	64	

(2)係り受け頻度分析の結果(表2)

訪問看護記録における係り受け頻度では、「死亡 14 日前から死亡日まで 」 では 「がん 」 療養者 と「非がん」療養者で「呼吸 止まる」や「声 かける」、家族に関する係り受け頻度が高く、

「がん」療養者で「トイレ 行く」や「本人 希望」も高い結果であった。「死亡 28 日前から 15 日前まで」では、「がん」療養者で「トイレー行く」や「本人 希望」の頻度が高い一方、「非がん」患者で「声 かける」や家族に関する係り受け頻度が高かった。「死亡 42 日前から 29 日前まで」では、「がん」療養者で「トイレ 行く」や「食事 食べる」が高い結果であった。

丰 つ	「・/ 1	伝兼セレ	「ヨヒ-ムミノー」	療養者の訪問看護記録における係り受け頻度
77 Z	1/1.7/1	/位(1)	J⊢// 'N/	短信句 の 可回有 最前 歌にわり るかり マリック

	死亡14日前から死亡日まで					死亡28日前から15日前まで					死亡42日前から29日前まで			
	がん		非がん			がん		非がん			がん		非がん	
順位	係り受け	頻度	係り受け	頻度	順位	係り受け	頻度	係り受け	頻度	順位	係り受け	頻度	係り受け	頻度
1	呼吸 - 止まる	170	呼吸 - 止まる	64	1	トイレ - 行く	51	声 - かける	25	1	トイレー行く	32	様子-見る	16
2	家族 - 説明	153	声 - かける	63	2	様子 - 見る	43	家族 - 電話	18	2	家族一説明	25	家族ー話す	14
3	様子 - 見る	128	家族 - 説明	62	3	家族 - 説明	35	家族 - 話す	15	3	便一出る	23	清拭-更衣	11
4	声 - かける	119	様子 - 見る	55	4	様子 - みる	35	便 - 出る	14	4	家族-言う	21	便一出る	10
5	家族 - 伝える	102	家族 - 伝える	42	5	本人 - 希望	35	声かけ - 開眼	14	5	家族ー話す	20	家族-伝える	9
6	家族 - 連絡	98	家族 - 話す	40	6	声 - かける	32	家族 - 説明	13	6	様子一見る	19	家族一説明	8
7	トイレ - 行く	95	家族 - 連絡	38	7	家族 - 連絡	29	清拭 - 更衣	13	7	食事一食べる	19	家族-言う	8
8	連絡 - 伝える	87	家族 - 言う	36	8	調子 - 良い	28	家族 - 介助	12	8	家族一連絡	19	表情-良い	7
9	家族 - 話す	86	家族 - 相談	33	9	家族 - 話す	26	表情 - 良い	12	9	声ーかける	19	時間ーかかる	7
10	本人 - 希望	81	連絡 - 伝える	32	10	清拭 - 更衣	26	様子 - 見る	11	10	家族-相談	18	トイレー行く	6

(3)特徴語抽出分析の結果(表3)

訪問看護記録の特徴語抽出は表3のとおりで、「がん」療養者ではどの時期においても疼痛に関する内容が多く抽出され、「本人」も挙げられていた。「非がん」療養者では、吸引をはじめとする呼吸に関する内容が多く抽出され、「陰部洗浄」や「摘便」、「褥瘡」などの看護ケアや医療ケアの内容も特徴として抽出されていた。

表3 「がん」療養者と「非がん」療養者の訪問看護記録における特徴語抽出

	死亡14日前から死亡日まで					死亡28日前から15日前まで					死亡42日前から29日前まで			
	がん		非がん	υ		がん		非がん	,		がん		非がん	υ
順位	単語	指標値	単語	指標値	順位	単語	指標値	単語	指標值	順位	単語	指標値	単語	指標值
1	痛み	153.4	吸引	294.3	1	痛み	99.39	吸引	92.44	1	痛み	56.82	吸引	84.61
2	使用	146.1	痰	164.4	2	本人	89.12	陰部洗浄	64.65	2	内服	47.83	摘便	57.01
3	本人	130.8	引ける	134.3	3	使用	66.19	弱い	60.16	3	オキノーム	45.03	水分	46.05
4	トイレ	124.3	口腔内	87.1	4	オキノーム	55.98	ガーゼ	58.94	4	言う	43.68	陰部洗浄	45.91
5	オプソ	117.1	弱い	86.42	5	オプソ	48.9	口腔ケア	54.07	5	本人	42.01	痰	45.03
6	レスキュー	83.58	開眼	85.72	6	内服	46.27	肺音クリア	45.97	6	嘔気	38.48	褥瘡処置	40.38
7	強い	79.97	口腔ケア	78.89	7	辛い	45.43	摘便	44.89	7	思う	32.09	あり	40.04
8	辛い	69.85	点滴	78.46	8	希望	44.8	保護	44.31	8	使用	32.02	見る	37.07
9	オキノーム	69.36	呼吸	76.22	9	精神的支援	44.14	軽度あり	40.57	9	病状観察	29.04	覚醒	35.76
10	伝える	68.63	SpO2	74.79	10	トイレ	43.4	声かけ	40.49	10	痛い	28.72	左肘部	34.04

(4) ことばネットワーク分析の結果(図1)

訪問看護記録のことばネットワーク分析は図1のとおりであった。「死亡42日前から29日前

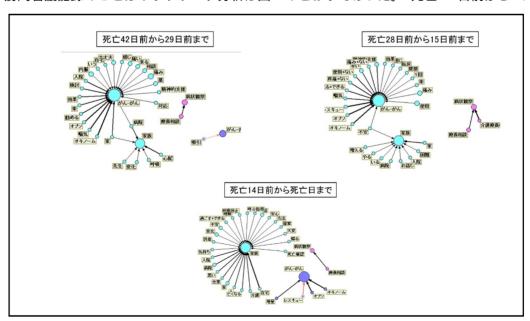


図1 ことばネットワーク分析の結果

まで」では、「がん」療養者については痛みに関する言葉との共起関係が見られ、家族については病院、家、先生、呼吸、変化、心配という言葉との共起関係が見られた。「死亡 28 日前から15 日前まで」では、「がん」療養者については「死亡 42 日前から 29 日前まで」と同様に、痛みに関する言葉との共起関係が見られた。家族については病院、家、入院、困難という言葉との共起関係が見られた。また病状観察、介護保険、療養相談という言葉に共起関係が見られた。「死亡 14 日前から死亡日まで」では、「がん」療養者については「死亡 42 日前から 29 日前まで」と「死亡 28 日前から 15 日前まで」と同様に、痛みに関する言葉との共起関係が見られた。家族については、不安、安心、大変など多くの言葉との共起関係が見られた。

在宅看取りとなった日から 42 日間遡った訪問看護記録から、「がん」療養者と「非がん」療養者で訪問看護内容の特徴に違いがあることが明らかとなった。「がん」療養者は死亡 2 週間前でもトイレに行くなど、ADL が死亡間近まで保たれている場合があることがわかった。また、「がん」療養者は疼痛に関する看護ケアが多く、訪問看護記録に「本人」や「希望」という特徴があったことから、訪問看護師は疼痛管理を行いながら療養者本人の希望や精神的ケアを行っていた。一方「非がん」療養者では、死亡日の 28 日前から療養者本人に声かけを行い、意識レベルを確認する内容が多かったことから、「非がん」療養者は死亡の 1 か月前から寝たきりなどの状態にあることが多く、呼吸ケアなど生命にかかわる看護ケアと、陰部洗浄や摘便などの清潔・排泄ケアが多くなされていた。死亡時の平均年齢による差も考えられるが、「がん」と「非がん」療養者へのケア内容に特徴に違いがみられたことから、今後は看護ケアの量についても分析を行い、「がん」と「非がん」療養者の終末期に必要な訪問看護を明らかにし、療養者と家族が望む最期を迎えることができる体制を整えていく必要がある。

引用文献

- 1) 佐藤泉, 山本則子他 (2011): 終末期の訪問看護における時期別の期間と訪問頻度の違いがんとがん以外の事例の比較 , 日本看護科学会誌, 31(1), 68-76.
- 2) Lunney J. R., Lynn J., et al. (2003): Patterns of functional decline at the end of 1ife, JAMA, 289(18),2387-2392.
- 3) 若林和枝,湯沢八江(2011):在宅がん患者と非がん患者の看取り時に行われた訪問看護の提供実態 死亡7日前より死亡日までに提供された訪問看護時間および回数からの一考察,日本在宅ケア学会誌,15(1),62-69.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1		杂丰	老	Ŋ
	•	元収	ъ	\blacksquare

村田加奈子、富田真佐子、藤澤真沙子、鈴木浩子、西田幸典、野島あけみ

2 . 発表標題

終末期における「がん」療養者と「非がん」療養者への訪問看護の特徴~訪問看護記録からの分析~

3 . 学会等名

第9回日本在宅看護学会学術集会

4.発表年

2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

_

6.研究組織

	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	富田 真佐子	昭和大学・保健医療学部・教授	
研究分担者	(Tomita Masako)		
	(10433608)	(32622)	
	鈴木 浩子	昭和大学・保健医療学部・教授	
研究分担者	(Suzuki Hiroko)	ATIENCE IN THE TAIL	
	(40468822)	(32622)	
	西田 幸典	神奈川工科大学・保健医療学部・教授	
研究分担者	(Nishida Yukinori)		
	(50464714)	(32714)	
T.V.	入江 慎治	神奈川工科大学・保健医療学部・教授	
研究分担者	(Irie Shinji)		
	(90433838)	(32714)	
<u> </u>	<u>! ' </u>		

6.研究組織(つづき)

	· MIDENER (D D C)		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	藤澤 真沙子	昭和大学・保健医療学部・兼任講師	
研究分担者			
	(70840081)	(32622)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------